



日本の公認会計士として日本及びインドネシアの大手監査法人勤務を経て、日本の会計税務及び親会社の考え方にも精通しながら、時には日本本社へも出向いてサービス提供。会計税務を中心とした日常的業務のお手伝いから、新規進出や組織再編、M&A など幅広い側面で日系企業を支援。

「急速に改善されるジャカルタの公共交通 (空港鉄道編)」

前回のレポートから少し時間が空いてしまったのですが、今回もジャカルタの公共交通について記載したいと思います。なぜなら、つい先日実際にジャカルタの空港鉄道に乗ってみて、いろいろと思うところがあって皆様にお伝えしたかったからです。

＜空港鉄道をこれまで使わなかった理由＞

2017年12月26日に試験運行が始まった空港鉄道ですが、私は今まで利用を避けていました。運賃が70,000インドネシアルピア(日本円で約700円、トランスジャカルタは3,500IDR、日本円で約35円)で比較的高額であったことと、空港鉄道の降車駅からタクシーを使う必要があったこと、待ち時間や荷物を運ぶことの困難等を想定して、利用を避けてきました。インドネシアの公共サービスに対しては、次のような印象があります。

①公共交通であっても、インドネシア人はまず半年はその安全運行を疑って様子見をするのが一般的。②運行が不安定で、待ち時間が想定外になる事が多い。③利用者の目線に立つことができない構造(「おもてなし精神」の対極)。例えば、重いスーツケースを苦勞して運ぶことが想定される。

＜公共サービスも著しい改善の可能性＞

上記のような印象を理由に空港鉄道を利用しなかった私ですが、その印象は実際に利用してみて「かなり変わった」というのが率直なところ。どのように変わったかを以下に記載します。

インドネシア人にとっては今でも空港鉄道は人気があるとは思えない印象ですが、①安全性は特に問題なく何年か運行されており、私自身も安全性に不安なく利用できました。②実際の待ち時間や乗車時間は事前の想定どおりで、想定外のことはありませんでした。③日本ほど動線上にエレベーターやエスカレーターは無い印象ですが、それでもインドネシア国内の他の公共施設よりも良い印象で、そこまで苦勞はしませんでした。

＜空港鉄道利用の実際＞

可能な限りリアルに記載したいと思います。

- 日本からジャカルタには、多くはターミナル3になると思います。到着すると空港内のターミナル間移動の電車に乗り、市内行きの空港鉄道の発着駅である空港駅まで行きます。この電車は無料ですが適切に運行されているようで、長くても10分や15分の待ち時間で乗れると思います。
- ターミナル間移動の電車はクーラーが効いていて快適で、到着した空港駅内でもそこまで歩くこともなく、空港の券売機や改札のエリアに到着します。券売機では、以前紹介したゴジェックのgo payを利用しましたが、切符販売窓口もありましたので、現金などでの対応も可能かと思われます。
- 写真のチケットを買ったのですが、なぜかホームに入ることは許されず、駅構内の待ち合わせ用の席に座って待つことになりました。30分間隔程度で電車はありました。
- 車内はとても快適で、運賃の高さのためかとても空いており、予定時刻どおりに到着駅に着きました。インドネシアの公共交通の著しい改善を感じました。

公共サービスについても、他の分野と同じくかなりのスピードで改善・変化しているようです。私の印象も5年程度で古くなっていると感じました。



【空港鉄道のチケット】